

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

後期阿南町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

長野県下伊那郡阿南町

3 地域再生計画の区域

長野県下伊那郡阿南町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、合併後（1959年）の現在の阿南町となった直後の国勢調査（1960年）では、10,343人であったが、年々減少を続け、60年経過した2020年には、4,299人と6,044人（約58.4%）の減少となっている。国立社会保障・人口問題研究所によると、2050年には総人口が1,993人となる見込みである。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は1980年の1,230人から年々減少し、2020年には393人となる一方、老年人口（65歳以上）は1980年の1,445人から2020年には1,975人と増加の一途をたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も1980年の4,615人から減少傾向にあり、2020年には1,931人となっている。

自然動態をみると、直近10年間で出生数は2015年の25人をピークに減少し、2023年には6人となっている。その一方で、死亡数は2015年には120人となっており、2023年には135人と増加の一途をたどっており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲129人（自然減）となっている。

社会動態をみると、直近10年間で2014年には転入者（167人）が転出者（155人）を上回る社会増（12人）であった。しかし、都市部への進学や就職等に伴い、町外への転出者が増加し、2023年には1人の社会増となっている。このように、人口の減少は出生数の減少（自然減）が原因となっており、転出者の増加（社会減）とならないように現状を維持していくことが重要と考えられる。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念される。

これらの課題に対応するため、町民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現を図り、自然増につなげる。また、移住を促進するとともに、安定した雇用の創出や地域を守り、活性化するまちづくり等を通じて、社会減に歯止めをかける。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標 1 地域が元気で時代にあった安全・安心なくらし
- ・基本目標 2 老いも若きも誰もが主役で活躍するまち
- ・基本目標 3 若者を地域で育てるまちづくり
- ・基本目標 4 日本中に発信！阿南町ブランド ～人の流れをつくる～

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与する地方版総合戦略の基本目標
ア	地域のコミュニティ数	53地区	53地区	基本目標 1
ア	地域おこし協力隊の隊員数	1人	1人	基本目標 1
ア	C A T V自主放送の番組数	60番組	60番組	基本目標 1
ア	町職員による出前講座・防災講演会	9回	15回/年	基本目標 1
ア	町民バスの利用者数	1,423人	1,400人/年	基本目標 1
ア	新たな交通システムの構築	実施	実施	基本目標 1
ア	タクシー券の利用者数	2,103人	2,100人/年	基本目標 1
ア	交通死亡事故0日の継続	505日	1,800日	基本目標 1
ア	交通指導所の開設(回)	2回	2回/年	基本目標 1
ア	公民館を主とした生涯学習(体育事業を除く)への参加者数	725人	725人/年	基本目標 1
ア	図書館の利用者数	6,214人	6,000人	基本目標 1

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ア	人権学習（講習会・館報・映画鑑賞等）の回数	2回	2回	基本目標1
ア	阿南町博物館計画の策定	未実施	実施	基本目標1
ア	ニュースポーツ・海洋レクリエーションの体験会回数	2回	4回/年	基本目標1
ア	B&Gの利用者数	3,752人	3,800人/年	基本目標1
ア	みんなで走ろう駅伝競走大会への参加者	287人	340人/年	基本目標1
ア	診療所常駐医師数	2人	2人	基本目標1
ア	医療機関数	5施設	4施設	基本目標1
ア	森林経営計画の認定箇所数	0	3	基本目標1
ア	森林環境譲与税を活用した森林整備及び景観整備実施箇所数	4箇所	4箇所/年	基本目標1
ア	里山整備利用地域数	0団体	1団体/年	基本目標1
ア	景観整備の実施件数	22件	22件/年	基本目標1
ア	管路更新計画の作成	作成	作成	基本目標1
ア	水道施設有収率	62.7%	70%	基本目標1
ア	水道教室の開催数	4回	4回/年	基本目標1
ア	農業集落排水接続率	84.23%	87.5%	基本目標1
ア	合併浄化槽普及率	78.95%	88.72%	基本目標1
ア	栗野門島線の整備の完了（残りkm）	0.9km	0km	基本目標1
ア	点検判定Ⅲ以上の橋梁修繕率	99%	99%	基本目標1
ア	通学路点検及び区要望の危険箇所対策	2箇所	5箇所	基本目標1
ア	修繕が必要な河川の改修	1箇所	5箇所	基本目標1
ア	防火水槽の更新	3箇所	7箇所	基本目標1
ア	防災啓発イベントの参加者数	200人	300人	基本目標1
ア	土砂災害特別警戒区域内ではない指定避難所の収容人数	312	720人	基本目標1

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ア	社会教育施設（自然の家、グラウンド、体育館、B&G）の利用者数	20,000人	30,000人	基本目標1
ア	ボランティア大会の開催数	0回	1回/年	基本目標1
ア	見守り協力機関数	3機関	3機関	基本目標1
ア	地元施工実施箇所数の維持	7件	7件/年	基本目標1
ア	BCP（業務継続計画）及び 受援計画策定・検証・評価・ 改定	策定	検証・評価・ 改定	基本目標1
ア	消防団員数（嘱託含む）	133人	150人	基本目標1
イ	中学生以下の子どもとの交流 受け入れ施設	4施設	4施設	基本目標2
イ	認知症サポーター数（人） H26～累計	698人	1,000	基本目標2
イ	シニアクラブ加入割合及びク ラブ数	66.1% 16クラブ	66% 16クラブ	基本目標2
イ	日中活動の場（箇所）	1箇所	1箇所	基本目標2
イ	小中学生との交流施設数	2施設	2施設	基本目標2
イ	朝食を毎日食べる小学生の割 合	96.9%	100%	基本目標2
イ	睡眠時間が8時間以上の小中 学生の割合	53%	75%	基本目標2
イ	健康教室の開催数	16回	16回/年	基本目標2
イ	ふっとふっと教室参加者数の 増加	78人	100人/年	基本目標2
イ	人間ドック受診者数	121人	150人/年	基本目標2
イ	特定健診受診率	61.1%	62%	基本目標2
イ	特定保健指導実施率	65.9%	75%	基本目標2
イ	年金プラス100万円達成者数	7人	10人/年	基本目標2
イ	新規就農者数	3人	3人	基本目標2
イ	水田経営持続化支援金交付者 数	209人	200人/年	基本目標2
イ	農地流動化促進事業奨励金交 付面積（借地耕作面積）	765反歩	765反歩	基本目標2

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
イ	林業従事者数	33人	35人	基本目標2
イ	阿南高校生の職場体験への参加者数	36人	10人	基本目標2
イ	町商工会参加企業数	125団体	120団体	基本目標2
ウ	住宅新築事業補助金の活用件数	2件	5件/年	基本目標3
ウ	町営住宅の入居率	96%	97%	基本目標3
ウ	結婚活動イベントの開催	1回	1回/年	基本目標3
ウ	補助金交付件数（就労祝金、かえっておかないよ交付人数）	4人	5人/年	基本目標3
ウ	子ども・子育て支援事業計画策定に係る事前調査の回答項目保護者が「子育てについて不安を感じている」割合 ※下表は各項目についての割合	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	①子育てや教育にかかる経済的負担が大きい	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	②仕事と子育ての両立が難しい	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	③子どもの育て方、接し方が分からない	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	④家族の理解や協力が得られない	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	⑤子どもの健康や発達に不安がある	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	⑥子どもの教育について不安がある	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	⑦教育・保育事業が利用しにくい	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	⑧不安や悩み相談する相手や場所が周囲にない	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	⑨小さな子どもにとって安全な遊び場所が身近にない	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	⑩自分のための時間や、リフレッシュの時間がとれない	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	⑪子どもの友だち付き合いが心配である	R7.3設定	R7.3設定	基本目標3
ウ	ノーテレビ・ノーゲームデーの回数	12回	12回	基本目標3
ウ	中学校の教育環境のあり方の検討・整備	実施	実施	基本目標3

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ウ	I C Tを活用した小中学校の他校との交流回数	18回	6回/年	基本目標 3
ウ	乳幼児医療費事業の維持	維持	維持	基本目標 3
ウ	小学校学力・学習状況調査結果（国の平均正答率以上の項目率）	10.53%	15%	基本目標 3
ウ	中学校学力・学習状況調査結果（国の平均正答率以上の項目率）	46.43%	46%	基本目標 3
ウ	英語教育のためのA L T数	2人	2人	基本目標 3
ウ	小学校体力・運動能力、運動習慣等調査結果（国の平均以上の種目率）	0%	50%	基本目標 3
ウ	中学校体力・運動能力、運動習慣等調査結果（国の平均以上の種目率）	45.83%	46%	基本目標 3
ウ	土曜日の通学バス運行	実施	実施	基本目標 3
エ	移住希望者と地域をつなぐ団体数	2団体	2団体	基本目標 4
エ	空き家を活用したお試し住宅の制度新設	—	制定	基本目標 4
エ	空き家利用促進事業補助金の活用件数	8件	10件/年	基本目標 4
エ	空き家等活用起業件数	0件	1件	基本目標 4
エ	移住セミナーへの参画	2箇所	2箇所/年	基本目標 4
エ	人口の社会動態増減数	1人	0人	基本目標 4
エ	ホームページの町内在住者の閲覧者数	2,271人	3,000人/年	基本目標 4
エ	YouTube のチャンネル登録者数	302件	500件	基本目標 4
エ	Twitter のフォロワー数	1,386件	2,000件	基本目標 4
エ	町HP へのイベント情報の掲載かじかの湯・道の駅イベント情報の掲載	0件	48件	基本目標 4
エ	文化財・化石など地域資源へ触れる機会の創出	75人	100人/年	基本目標 4

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
エ	講演会の年間開催および出張公演の回数の維持	4回	4回/年	基本目標4
エ	文化財・民俗芸能の映像化およびSNSでの発信	2コンテンツ	10コンテンツ	基本目標4
エ	観光統計入込客数（かじかの湯・道の駅・二瀬キャンプ場）	234,334人	266,800人	基本目標4
エ	化石館の利用者数	400人	800人	基本目標4
エ	阿南温泉かじかの湯の来場者数	53,200人	55,200人	基本目標4
エ	リニア開通に向けた広域ビジョンの策定	実施	実施	基本目標4
エ	農家民泊・農業体験受入件数	74件	35件/年	基本目標4
エ	クラインガルテン利用棟数	20棟	20棟	基本目標4
エ	農業法人化数	1法人	3法人	基本目標4
エ	燃やすごみの収集量	488 t	404 t	基本目標4
エ	二酸化炭素排出量	1,782 t	1,976 t	基本目標4
エ	家庭用太陽蓄電池の普及	8件	10件	基本目標4
エ	ふるさとあなん寄附金額（農業支援）	107,135,000円	100,000,000円	基本目標4
その他	健全化判断比率 （実質公債費率）	3.4%	25%以下	—
その他	健全化判断比率 （将来負担比率）	0%	0%以下	—
その他	町税の収納率	97.2%	98.8%	—
その他	町税以外の収納率	98.5%	98.8%	—
その他	職員研修実施回数	2回	2回/年	—

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

後期阿南町まち・ひと・しごと創生総合推進事業

ア 地域が元気で時代にあった安全・安心な暮らし事業

イ 老いも若きも誰もが主役で活躍するまち事業

ウ 若者を地域で育てるまちづくり事業

エ 日本中に発信！阿南町ブランド ～人の流れをつくる～事業

② 事業の内容

ア 地域が元気で時代にあった安全・安心な暮らし事業

地域が元気であるためには、自治体の最小単位であるコミュニティの存在が重要です。コミュニティと行政の関わり方を改めて見つめ直し、時代や地域の実状にあった取り組みを行います。また、生涯学習やスポーツなどの同じ興味を持った人同士のつながりを大切にし、ひとが集う元気な地域をつくります。

安全・安心な暮らしのために、誰もが安心して医療サービスを受けられる環境や災害に強い安定したライフラインの整備を行います。また、自分の命は自分で守りお互いが支え合う地域意識の向上を図ります。

【具体的な事業】

- ・集会施設等への支援
- ・まちづくり活動への支援 等

イ 老いも若きも誰もが主役で活躍するまち事業

労働人口が減少していくことが予想される中で、若者から高齢者まで誰もが活躍し、さまざまな形で地域の担い手となるまちを目指します。

誰もが活躍し地域の担い手となるためには、仕事による収益の確保はもちろんのこと、生きがいを持ち心身ともに健康で仕事に向かえる取り組みを行います。

【具体的な事業】

- ・高齢者の働く場の確保
- ・障がい児者の日中活動の場の確保 等

ウ 若者を地域で育てるまちづくり事業

若者はまちの未来の担い手です。まずは、地域に住み続けてもらう・戻ってきてもらう・外から来てもらう取り組みを積極的に行います。

若い世代の子育ての希望をかなえるために、幼少期から親の手元を離れるまで、切れ目のない形で、地域全体で育てるまちをつくります。

【具体的な事業】

- ・結婚活動への支援
- ・子育て支援制度の充実 等

エ 日本中に発信！阿南町ブランド ～人の流れをつくる～事業

他市町村にはないまちの魅力や資源を地域が共有し、阿南ブランドを確立します。

阿南ブランドを日本中に発信し、まずはまちのことを知ってもらう、次に来てもらう、そして関わってもらう取組みを行います。

【具体的な事業】

- ・空き家銀行制度の活用及び利活用の推進
- ・移住セミナーの開催 等

※ なお、詳細は阿南町デジタル田園都市国家構想総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標(KPI)）

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

1,400,000千円（2025年度～2029年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度8月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本町公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2025年4月1日から2030年3月31日まで

6 計画期間

2025年4月1日から2030年3月31日まで